

令和7年度 徳島市富田小学校総括評価表

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
確かな学力 「かしこく(知)」	①思い・考えを伝える表現力 ②最後まで話を聞く態度 ③自ら学び、考える力の育成 ④基礎基本の学力の定着 ⑤家庭学習の習慣化「手引き」 ⑥読書習慣の推進 [学力向上推進委員会]	評価指数 ①児童は自分の思いや考えをしっかりと伝えることができている。(85%) ②児童は友達や教師の話を最後までよく聞くことができている。(85%) ③自ら考え、学び合い、主体的に学習する授業づくりに取り組んでいる。(85%) ④基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために工夫した授業に取り組んでいる。(85%) ⑤毎日の宿題をきちんと出している。(85%) ⑥よく読書をしている。(85%)	評価指数の達成度 ①児童は自分の思いや考えをしっかりと伝えることができていると感じる教職員が100%で達成。 ②児童は友達や教師の話を最後までよく聞くことができていると感じる教職員が90%で達成。 ③自ら考え、学び合い、主体的に学習する授業づくりに取り組んでいる教職員が90%で達成。 ④基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために工夫した授業に取り組んでいる教職員が95%で達成。 ⑤毎日の宿題をきちんと出している児童は、89%で達成だが、学年が上がるにつれて割合が減っているのは課題。 ⑥毎日・ときどき読書をしている児童は72%。読書離れが進んでいることが課題。(学年が上がるにつれ)	総合評定 (評定) A	タブレットを活用し、やすい環境が整っているのはとても素晴らしい。それと同時に誤った使い方をしないように、低学年の段階から指導することが必要である。保護者の方にも啓発する必要があると感じる。そのような講演を行うなら協力させていただく。 活字離れが課題となっているようだが、朝の読み聞かせはともにも、朝の読書時間や読み聞かせを強化し、読書習慣の再構築を図る。また、家庭学習の負担や難易度を精査し、家庭との連携を密にして「自ら学ぶ力」の育成を継続的に進めることが重要である。
		活動計画 ①②ノート指導を充実し、書く活動を活発に行い、自分の考えをもてるようにする。またICTを効果的に使い、話し合い活動を充実し、友達の意見をよく聞き、自分の考えを分かりやすく伝える活動を積極的に行う。 ③児童が主体的に学習に取り組めるよう授業改善に努める。 ④教材教具や板書、発問などを工夫し、「分かる授業」を行う。 ⑤家庭学習を充実させるとともに、家庭学習の手引きを工夫し、家庭との連携を図る。 ⑥新聞を授業で用いたり、朝の読書の時間を確保したりして、読書の推進を図る。	活動計画の実施状況 ①自分の思いや考えの表現方法(発表、ノートやタブレットに書くなど)を幅広く活用した。 ②「聞く」から「聴く」へ。そして「訊く」へと促した。 ③教員間で情報交換をしたり、児童の興味をひくような授業になるよう工夫したりしてきた。 ④朝の活動の時間を充実させることが課題。(反復練習の必要性) ⑤宿題の内容の精査を行う。(児童自身がやりたいことを重視したり、タブレットをもっと活用したりする。) ⑥読書をする時間を確保する。もっと学校全体で読書を推進するための周知が必要である。新聞をもっと活用していく。	(所見) 教員が授業を工夫することで、児童の学習意欲が向上していることがわかった。 特にロイロノートを活用し、児童同士の意見を共有したり引き出したりすることが即時にできるようになり、対話的な学びが広がってきた。 授業で培ったものが、学校生活でも生かされておき、主体的に考え行動できる児童が増えた。	
豊かな心 「やさしく(徳)」	①あいさつとていねいな言葉づかい ②人権感覚の育成 ③自尊感情の育成 ④だれとでも仲よく ⑤善悪の判断 ⑥いじめの根絶 [人権教育推進部会] [生徒指導部会]	評価指標 ①気持ちのよい挨拶ができるが85%以上 ②人権教育、道徳教育ともに、教育活動全体を通じて取り組んでいるが85%以上 ③自分のことが好きであるが85%以上 ④友達と仲良くしているが85%以上 ⑤きまりを守ることができるが85%以上 ⑥いじめのない明るい学校づくりに取り組んでいるが85%以上	評価指数の達成度 ①気持ちのよい挨拶をしているは、保護者は78%、教員は90%、児童は92%とばらつきがあるが、平均すると87%となり、達成している。 ②人権教育、道徳教育ともに、教育活動全体を通じて取り組んでいるが95%で達成。 ③「自分のことが好きである」児童82%で、達成できていない。学年が進むごとに自尊感情が低下している。 ④「友達と仲良くしている。」児童99%で達成。 ⑤きまりを守ることができると感じている教員は85%、児童は94%で達成。 ⑥いじめのない明るい学校づくりに取り組んでいるが、教職員は95%に対し、保護者は76%という評価であり、検討が必要。	B	深刻ないじめの件数はなしということと、理解のある保護者の方が多いことで、落ち着いた学校生活を送れているようで安心している。PTAとしてもいじめ問題講演会等を行う必要があれば人権教育などに依頼して、協力したい。SNS関係のいじめは世間で話題になっている。本校は保護者と児童が休日に学年行事を行っている。そのような機会に親子でSNSの使い方について学ぶ機会を設けてもよいのではないかと感じる。また、自転車での交通ルール改正にも注意して頂きたい。
		活動計画 ①挨拶運動や挨拶週間の設定と常時指導の徹底。 ②⑥全教職員が人権意識を高め、基本的人権を尊重しながら、人権教育を推進するために、研修体制を確立し、指導力の向上を図る。 ③児童のよさや可能性を認め、賞賛と激励により自信と意欲をもたせる。 ④⑤道徳科(人権教育)の授業力向上を図る。また、いじめアンケートを年2回行う。	活動計画の実施状況 ①児童運営委員会の挨拶運動や常時指導を徹底してきた。 ②④生活の見直しについて、職員全体で情報共有を行った。 ③下学年では、帰りの会でよいところ探しを行っている。また、上学年では、普段の生活や授業の中で、友達同士や教師から自尊感情を高めるような取組や言葉がけを行ってきた。 ⑤いじめアンケートを年に2回行い、それをもとに児童への聞き取りを徹底的に行ってきた。それがいじめの早期発見や早期解決に繋がっていると感じている。	日々の常時活動の中で、児童一人一人に対して、自己肯定感を高めることに繋がる活動を多く取り入れる必要があったと感じた。しかし、学年が上がるにつれ、自己肯定感が低くなっている。学年に応じたアプローチを考えて自己有用感を高められるよう工夫していく。「きまりを守る」については達成度が高いため、引き続き取り組んでいく。日頃の取組を地域や保護者の方に発信を増やしていく必要があると感じる。	
健やかな体 「たくましく(体)」	①早寝・早起き・朝ご飯 ②外で元気に遊ぶ ③責任をもってやり遂げる ④ボランティア活動の推進 ⑤根気強さの育成 [食育推進委員会] [保健指導部会]	評価指標 ①早寝・早起きの習慣が付いているが85%以上。朝ご飯を食べているが85%以上 ②外で元気に遊んでいるが85%以上 ③当番や委員会活動などに責任をもって取り組んでいるが85%以上 ④真剣に清掃活動を行っているが85%以上 ⑤自らの目標を達成するために、根気強くがんばっているが85%以上	評価指数の達成度 ①「早寝・早起きができる」保護者73%児童77%で、目標は達成していないが、昨年度より数値が上がっている。また、「朝ご飯を食べている」児童93%で、これは目標達成している。教職員は健康指導を行っているが90% ②外遊びを奨励する教職員は95%、運動が好きな児童も92%で達成。 ③児童は当番や委員会活動などに責任をもって取り組んでいると感じている教員が100%で達成 ④真剣に清掃活動を行っていると感じる教職員が95%児童は97%で達成。 ⑤自らの目標を達成するために、根気強くがんばっていると感じる教員が100%	A	休みの日や放課後も学校の校庭や地域の公園で遊んでいる姿を見かける。コロナ禍以降外に出る機会が多くなり、仲よく遊んでいる姿はともにも健全であると感じる。遊びの中で関係性も広がると思う。学校では教員も外に出ているようだが、教師と一緒に遊んだ思い出はいつまでも心に残っている。一題として、外遊びの質を高めるためのピブスの再開を検討している。
		活動計画 ①バランスのとれた朝ご飯・睡眠教育の推進 ②外遊びの奨励と効果的な場の工夫による運動量の確保 ③当番や委員会活動への責任感を持たせる指導 ④清掃活動に真剣に取り組む指導 ⑤目標をもって根気強くがんばる機会の設定。	活動計画の実施状況 ①パワーアップ作戦や生活習慣アンケートが効果的だった。 ②児童企画のドッジボール大会や外遊び用具の貸出等で休み時間の外遊びの活性化を図った。 ③とみだっこタイムや委員会の取り組みが効果的であった。 ④舎外清掃は異学年交流と美化の両面で有効であった。 ⑤体育的行事の奨励で児童が主体的に運動に取り組んだ。	「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった	